

製品名 GFオルトランカプセル

作成日：2007年11月 1日  
 改訂日：2008年11月26日  
 改訂日：2009年 9月25日  
 改訂日：2011年 7月20日  
 改訂日：2012年 5月22日  
 改訂日：2014年 7月23日

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	GFオルトランカプセル
整理番号	SCEI010-82140
会社名	住友化学園芸株式会社
住所	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号
担当部門	研究開発部
電話番号	03-3660-8015
FAX番号	03-3660-8002

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高压ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過氧化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類できない 分類対象外 分類対象外 分類できない 分類できない 区分外 分類対象外 分類できない 分類対象外 分類できない
----------	---	---

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
-----------	----------	-----



製品名 GFオルトランカプセル

急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	区分外
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分外
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分1（神経系）
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分2（神経系）
環境に対する有害性	
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報  
注意書き

危険  
飲み込むと有害

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意事項を読み理解するまで取扱わないこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
適切な保護メガネ、マスクを着用すること。  
適切な個人用保護具を使用すること。  
粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

製品名 GFオルトランカプセル

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当を受けること。  
ばく露した場合、医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。  
漏出物は回収すること。

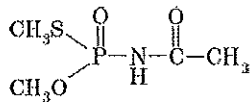
保管 容器に密閉して換気の良い場所で保管すること。  
施錠して保管すること。

廃棄 内容物、容器を都道府県知事に許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報 有効成分（アセフェート）：農薬取締法[殺虫剤]

### 3. 組成および成分情報

化学物質  
化学名 (一般名) 0,S-ジメチル-N-アセチルホスホロアミドチオエート  
(アセフェート)  
(IUPAC名) 0,S-dimethyl acetylphosphoramidothioate  
(商品名) オルトラン  
分子式 (分子量) C<sub>4</sub>H<sub>10</sub>NO<sub>3</sub>PS (183.17)  
化学特性 (構造式)



CAS番号 30560-19-1  
官報公示整理番号 2- (3) -168 (安衛法)  
化学物質管理促進法 第1種指定化学物質 政令番号 212 アセフェート  
分類に寄与する不純物 なし  
及び安定化添加物  
濃度又は濃度範囲 97.0% (製品) [98.0%以上 (原体)]

### 4. 応急措置

製品名 GF オルトランカプセル

吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診察、手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入；縮瞳、筋痙直、唾液分泌過多、発汗、吐き気、めまい、息苦しさ、痙攣。 経口摂取；痙攣、嘔吐、下痢。「吸入」参照。
最も重要な兆候及び症状	情報なし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

## 5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス（二酸化炭素）乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火する恐れがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。

製品名 GFオルトランカプセル

- 回収・中和 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
- 二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
プラスチックシートで覆い、散乱を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項 取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
使用前に使用説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。  
飲み込まないこと。  
眼に入れないこと。
- 接触回避 情報なし

### 保管

- 技術的対策 特別に技術的対策は必要としない。
- 混触危険物質 情報なし
- 適切な保管条件 酸化剤から離して保管すること。  
冷所、換気の良い場所で保管すること。  
容器を密閉して保管すること。  
施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料 情報なし

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
- 管理濃度 未設定

製品名 GFオルトランカプセル

許容濃度（ばく露限界値、未設定  
生物学的ばく露指標）

保護具

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護	適切な保護衣を着用すること。

適切な衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	色、形状 臭い pH	類白色の個体 特有臭 情報なし
----	------------------	-----------------------

融点・凝固点 88.0～91.0℃

沸点、初留点及び沸騰範囲 150.1℃（沸点）

引火点 情報なし

自然発火温度 情報なし

燃焼性（個体、ガス） 情報なし

爆発範囲 情報なし

蒸気圧  $3.99 \times 10^{-5} \text{Pa}$  (25℃)

蒸気密度 情報なし

蒸発速度（酢酸ブチル=1） 情報なし

比重（密度） 1.221g/cm<sup>3</sup> (20℃)

溶解度 水：>1,000g/L (20℃)  
ヘキサン：23.9mg/L (20℃)、キシレン：2.52g/L (20℃)  
ジクロロメタン：>250g/L (20℃)、アセトン：132g/L (20℃)  
メタノール：>250g/L (20℃)、酢酸エチル：33.8g/L (20℃)

オクタノール・水分配係数  $\log P = -0.90$

製品名 GFオルトランカプセル

分解温度	192℃
粘度	情報なし
粉じん爆発下限濃度	情報なし
最小発火エネルギー	情報なし
体積抵抗率（導電率）	情報なし

### 10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定。
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、有害なヒューム（窒素酸化物、リン酸化物、イオウ酸化物など）を生じる。 加水分解：169日（半減期、pH7）、熱安定性：安定
避けるべき条件	加熱、加水分解
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	有毒なヒューム（窒素酸化物、リン酸化物、イオウ酸化物など）

### 11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットLD <sub>50</sub> 値：雄；1,080mg/kg、雌；1,010 mg/kg（1983年）
	経皮	ラットLD <sub>50</sub> 値：雄；>5,000mg/kg、雌；>5,000mg/kg（1983年）
	吸入	吸入（ガス）：常温で個体 吸入（蒸気）：情報なし 吸入（粉じん）：ラットLD <sub>50</sub> 値：雌雄；>14.8mg/L（1979年） なお、投与には水溶液のエアゾールを使用。
皮膚腐食性・刺激性		ウサギの皮膚に適用した試験において、処置後24時間で2匹に軽度～明瞭な紅斑、48時間でもう1匹に軽度の紅斑、72時間で全数が正常に回復し、一次刺激スコアが0.1であった（1979年）。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		ウサギの眼に適用した試験で、適用1時間後に結膜に軽度な発赤と分泌物が見られたが、24時間後には完全回復した（1979年）。
呼吸器感作性又は皮膚感		呼吸器感作性：情報なし

製品名 GFオルトランカプセル

- 作性 皮膚感作性：モルモット20匹を用いたM-K Maximization testにおいて、陽性対照群全数（10匹）に感作性が見られたが、投与群には感作性がみられなかった（1995年）。
- 生殖細胞変異原性 マウスの腹腔内投与による骨髄を用いた小核試験（体細胞in vivo変異原性試験）で陰性（1980年）、マウスを用いた経口投与による体細胞突然変異試験で陰性（1986年）、ラットの肝細胞を用いた不定期DNA合成試験で陰性（1999年）、マウスを用いた優性致死試験で陰性（1982年）及びマウスを用いた染色体異常試験で陰性（1982年）とin vivoではすべて陰性であった。  
なお、in vitroではエームズ試験において非常に高用量で陽性結果（1980年）が得られたが、再現性は見られなかった（1977年）。また、マウスリンフォーマ試験では陽性であった（1982年）。
- 発がん性 マウスを用いた104週間経口投与の発がん性試験において、雌のみに最大耐量を超えた高用量（167mg/kg/日）で肝細胞癌と過形成結節の有意な増加がみられた（1982年）。また、ラットを用いた28ヶ月の経口反復投与試験において、検体投与に関連して発生頻度が増加した腫瘍性病変は認められなかった（1981年）。
- 生殖毒性 ラットの3世代試験において、高用量のみに着床数の減少及び新生児数の減少等が認められた（1987年）。  
なお、ラットの催奇形性試験（1989年）及びウサギの催奇形性試験（1980年）では、催奇形性は認められなかった。
- 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） ラットを用いた経口単回投与試験において、振戦、運動失調、ロータロッドテストの成績低下、体温低下等の症状とコリンエステラーゼ活性阻害が観察されたことから、コリンエステラーゼ活性阻害に伴う神経毒性が認められたが、中枢及び末梢神経系組織には組織病理学的変化は認められなかった（1996年）。
- 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） ラットを用いた49日間経口反復投与神経毒性試験において、臨床的影響あるいは神経行動作用はどの用量（0～89.7mg/kg/日）でもみられず、神経病理組織学的検査でも投与による影響は見られなかったが、最高用量で脳のアセチルコリンエステラーゼ活性阻害は約80%であった（2004年）。  
ラットを用いた13週間経口反復投与神経毒性試験において、投与と関連する臨床的兆候はなかったが、最高用量（58.3mg/kg/日）の雌のみにおいて移動及び自発運動の低下がみられたが、神経病理組織学的検査では投与による影響はみられなかった（1997年）。  
このように、神経毒性症状の発現事例は僅かであるが、投与によるコリンエステラーゼ活性阻害は認められた。
- 吸引力呼吸器有害性 情報なし



製品名 GFオルトランカプセル

## 1.2. 環境影響情報

水生環境急性有害性 魚類（コイ）の96h-LC<sub>50</sub> = >100mg/L（2004年）  
水生環境慢性有害性 急性毒性が区分外であり、生物蓄積性がない。

## 1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1.4. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報 IMOの規制に従う。  
航空規制情報 ICAO・IATAの規制に従う。  
UN No. 2783  
Proper Shipping Name Class Organophosphorus pesticide, solid, toxic 6.1

### 国内規制

陸上規制情報 該当しない  
海上規制情報 船舶安全法の規制に従う。  
航空規制情報 航空法の規制に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 152

## 1.5. 適用法令

農薬取締法 第21791号  
化学物質管理促進法 第1種指定化学物質 政令番号 212 アセフェート  
船舶安全法 毒物類・毒物

製品名 GF オルトランカプセル

航空法 毒物類・毒物  
港則法 毒物類・毒物

## 16. その他の情報

問合せ先  
会社名 アリスタ ライフサイエンス株式会社  
住所 東京都中央区明石町8番1号  
担当部門 日本・北アジア事業部門 MSDS担当  
電話番号 03-3547-4673  
FAX番号 03-3547-4695

中毒110番：財団法人 日本中毒情報センター  
事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る

中毒110番	一般市民専用電話 情報提供料無料	医療機関専用電話 (1件につき2,000円)
大阪 (365日、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365日、9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

### 引用文献

- 農薬中毒の症状と治療法 第11版 農林水産省生産局 (平成18年4月)

製品安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、当該化学製品を取り扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。  
この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品（当該製品）に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取り扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取り扱う事業者は、個々の取扱い等の実状に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この製品安全データシートを活用されるようお願いいたします。